

2008 年 11 月の東北地方の天候

【 11 月の特徴 】

- 気温の変動が大きい
- 中旬末からの低温、大雪
- 秋田県で竜巻が発生

(1) 2008 年 11 月の概況

この期間、低気圧や気圧の谷、冬型の気圧配置となった影響で曇りや雨または雪となる日が多かったが、中旬の前半は高気圧におおわれておおむね晴れた。気温の変動が大きく、特に中旬は、中頃にかけて暖かな高気圧におおわれたことや南からの暖気の影響で、気温の高い日が多かったが、その後は真冬並みの寒気が南下し、気温は低くなった。この寒気の影響により、東北北部や東北日本海側の山沿いを中心に大雪となったところもあった。また、2 日には、秋田県で竜巻による被害が発生した。

月平均気温は東北地方で平年並。月降水量は東北北部で平年並、東北南部で多い。月間日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。降雪の深さの月合計平年比は東北日本海側で 79% で平年並、東北太平洋側で 99% で多い。

(2) 各旬の天候経過

上旬：気圧の谷や寒気の影響により、東北日本海側を中心に曇りや雨の日が多かったが、低気圧は日本の北側と南海上を通過したため、東北南部では降水量は少なかった。気圧の谷の通過後は移動性高気圧におおわれて晴れの日もあった。2 日には、上空に寒気を伴った気圧の谷が通過し大気の状態が不安定となり、秋田県南秋田郡八郎潟町で竜巻による被害が発生した。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北北部で平年並、東北南部で少ない。日照時間は東北地方で少ない。

中旬：期間の前半は、移動性高気圧におおわれ東北北部を中心に晴れの日が多かったが、期間の後半は、低気圧や気圧の谷、冬型の気圧配置となった影響で曇りや雪または雨となる日が多かった。期間の中頃までは気温の高い日が多かったが、19 日から 20 日にかけては東北地方の上空に真冬並みの寒気が入り、気温は低くなった。東北北部や東北日本海側の山沿いを中心に大雪となったところがあり、平地でも積雪となったため、青森県では交通障害などが発生した。

平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で少ない。日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。

下旬：期間のはじめは冬型の気圧配置となった影響で曇りや雪または雨となる日が多かったが、その後は低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は短い周期で変わった。28 日には三陸沖を北上した低気圧の影響により、東北太平洋側を中心にまとまった雨となった。また、期間の中頃までは、寒気の影響で気温の低い日が多かった。

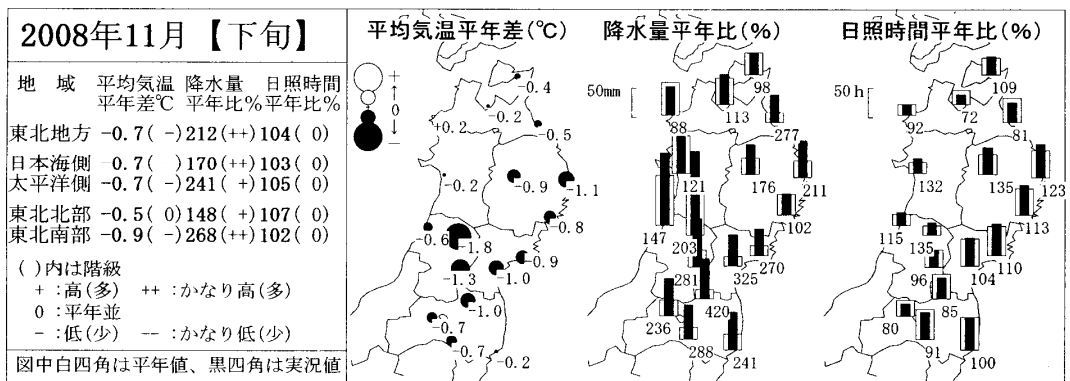
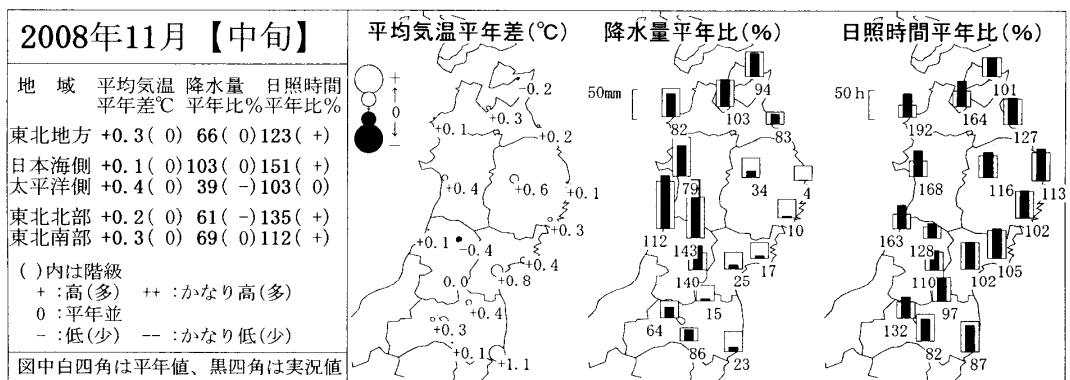
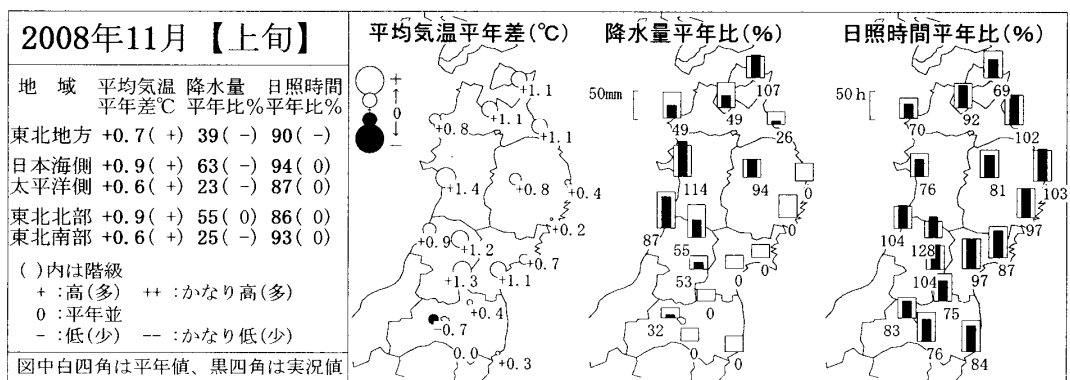
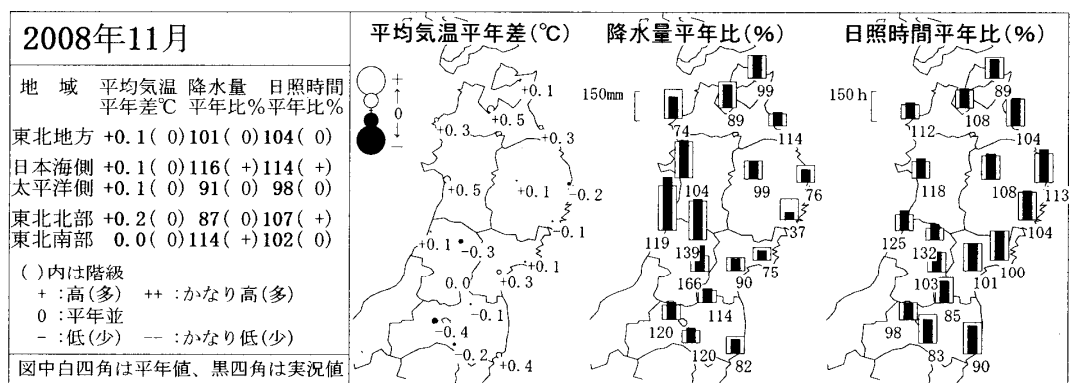
平均気温は東北北部で平年並、東北南部で低い。降水量は東北北部で多く、東北南部でかなり多い。日照時間は東北地方で平年並。

(注) 気候統計値は、東北地方にある 17 地点の气象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については 2 ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は 1971-2000 年です。階級区分については、3 ページ目脚注 2 を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区气象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2008年11月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971～2000年。

(注) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

(4) 2008 年 11 月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差) 階級			降水量(平年比)階級			降水日数			日照時間(平年比) 階級			降雪深さ(平年値)階級			最深積雪(平年値)階級		
	(°C)	(°C)		(mm)	(%)		≥1mm			(h)	(%)		(cm)	(cm)		(cm)	(cm)	
青 森	6.9	(+0.5)	○	117.5	(89)	○	18			98.5	(108)	○	30	(40)	○	17	(18)	○
深 浦	7.8	(+0.3)	○	109.5	(74)	—	14			80.2	(112)	+	—	(13)	—*	—	(4)	—*
む つ	6.4	(+0.1)	○	114.5	(99)	○	16			95.3	(89)	—	17	(21)	○	10	(7)	+
八 戸	6.9	(+0.3)	○	70.0	(114)	+	12			141.7	(104)	○	20	(8)	+	9	(2)	—*
秋 田	8.1	(+0.5)	○	190.5	(104)	○	17			100.0	(118)	+	—	(13)	—*	0	(5)	—
盛 岡	5.8	(+0.1)	○	92.0	(99)	○	15			128.0	(108)	○	18	(11)	+	14	(5)	+
大 船 渡	8.1	(-0.1)	○	38.5	(37)	—	6			144.5	(104)	○	—	(2)	○	—	(1)	○
宮 古	7.5	(-0.2)	○	65.0	(76)	○	2			166.0	(113)	+	—	(1)	○	—	(0)	
仙 台	9.4	(+0.3)	○	60.0	(90)	○	7			141.7	(101)	○	—	(1)	○	0	(0)	
石 巻	8.4	(+0.1)	○	49.0	(75)	○	7			149.6	(100)	○	—	(1)	○	—	(1)	○
山 形	7.2	(0.0)	○	134.5	(166)	—*	14			102.9	(103)	○	33	(12)	—*	18	(5)	—*
新 庄	5.9	(-0.3)	○	272.0	(139)	+	18			81.7	(132)	—*	40	(28)	+	24	(13)	+
酒 田	9.1	(+0.1)	○	266.5	(119)	+	21			100.6	(125)	+	3	(10)	—	2	(3)	+
福 島	8.9	(-0.1)	○	72.0	(114)	○	8			111.5	(85)	—*	7	(2)	+	7	(1)	—*
若 松	6.6	(-0.4)	○	88.0	(120)	+	13			86.1	(98)	○	3	(9)	○	3	(4)	+
白 河	7.2	(-0.4)	○	78.0	(120)	+	10			121.5	(83)	—	1	(2)	○	1	(1)	+
小 名 浜	11.2	(+0.4)	○	72.0	(82)	○	6			144.8	(90)	—		()			()	

(注) 1. 平年値は 1971～2000 年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+:高い(多い) ○:平年並 -:低い(少ない)

各階級の区分値は、1971～2000 年における 30 年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が 10 個ずつになる)ように決めた。

また、値が 1971～2000 年の観測値の上位または下位 10%に相当する場合には階級の「+」に * を付加した。この場合には

かなり高い(多い) かなり低い(少ない)

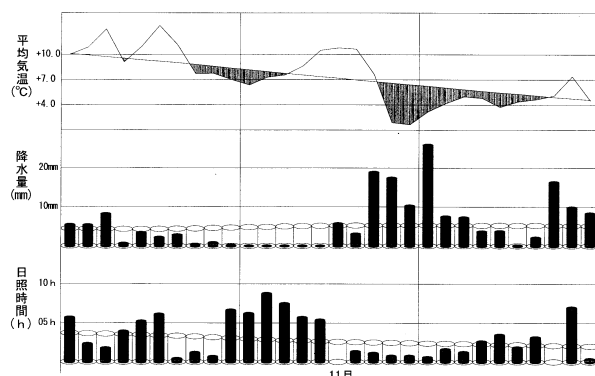
と表現できる。

3. 値の横に) や] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが]付きの値(資料不足値)については、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

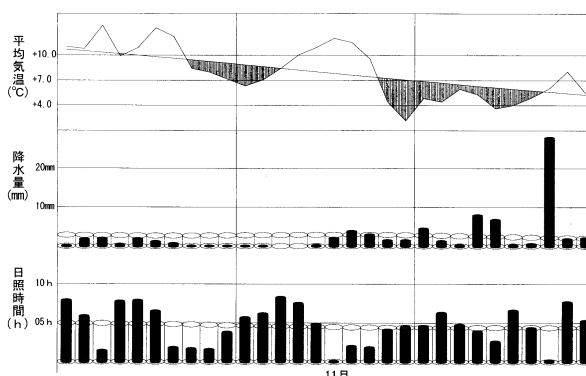
なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

4. 小名浜測候所が平成 20 年 10 月 1 日に特別地域気象観測所へ移行したことに伴い、小名浜の降雪および積雪の観測は終了した。

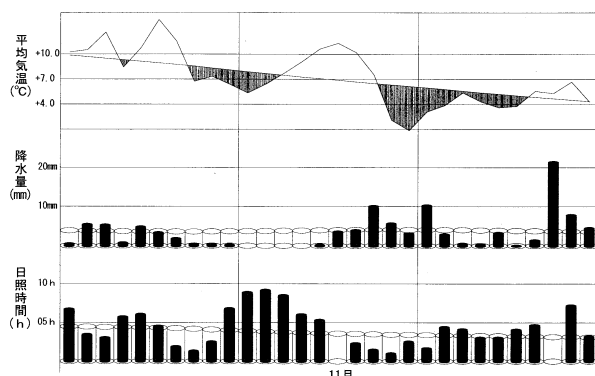
(5) 2008 年 11 月の日別経過図



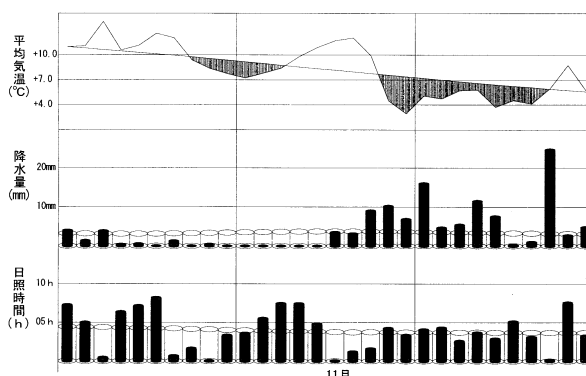
東北日本海側の日別経過図



東北太平洋側の日別経過図



東三北部の日別経過図



東三南部の日別経過図

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

(6) 2008 年 11 月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新

3 位以内はなし

月平均気温低い方からの順位更新

3 位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新

3 位以内はなし

月降水量少ない方からの順位更新

3 位以内はなし

月間日照時間多い方からの順位更新

3 位以内はなし

月間日照時間少ない方からの順位更新

3 位以内はなし

降雪の深さ月合計値多い方からの順位更新

順位	地点名	降雪の深さ月合計 cm	これまでの最大 cm (西暦年)	開始年	平年値 cm
1	八戸	20	18 (1985)	1953	8

月最深積雪大きい方からの順位更新

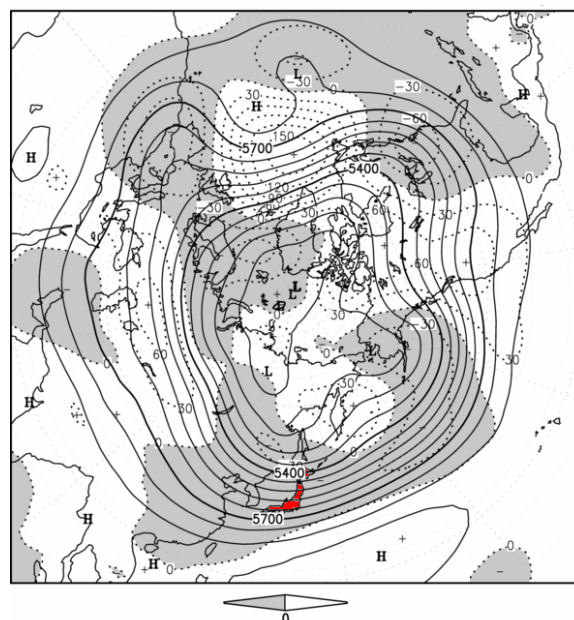
3位以内はなし

(注) 平年値とは 1971～2000 年の 30 年間の値を平均したものである。

(7) 2008 年 11 月の循環場の特徴

極東域では、大陸東部から日本の東海上にかけて負偏差となり、負偏差の中心は北海道周辺や日本の東海上に見られる。このことは、北海道の北を低気圧が発達しながら通過しやすかったことや、中旬の終わりからの強い寒気の南下に対応している。

日本の南海上では高気圧が平年より強く、また、華中付近が気圧の谷となっており、期間の前半を中心に暖気が入りやすかったことや、低気圧の影響を受けやすかったことに対応している。



2008 年 11 月の平均 500hPa 高度

実線は等高度線：60m 毎、点線は偏差：30m 毎
陰影部は負偏差（寒気に対応）

(8) 2008/2009 年寒候期 季節現象

2008/2009年寒候期 季節現象(初日)									
官署名	初 霜			初 氷			初 雪		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
青森	11.11	10.23	×	11.11	10.29	11.19	11.4	11.7	11.15
秋田	11.11	11.6	×	11.20	11.13	11.19	11.19	11.12	11.15
盛岡	11.2	10.18	11.5	11.10	10.24	11.5	11.8	11.8	11.16
仙台	11.27	11.6	11.17	11.27	11.16	11.17	11.20	11.22	11.18
山形	11.2	10.24	11.17	11.2	10.29	11.17	11.19	11.16	11.18
酒田	11.11	11.12	11.20	11.12	11.20	11.19	11.19	11.17	11.16
福島	11.21	11.6	11.17	11.21	11.11	11.17	11.20	11.24	11.18
若松	10.30	10.28	10.24	11.5	11.6	10.24	11.19	11.17	11.18

※昨年の青森・秋田の初霜は、積雪によって霜が観測できなかった期間があり、欠測(×)となりました。

初冠雪									
山岳名	海拔(m)	本年	平年	昨年	山岳名	海拔(m)	本年	平年	昨年
ハッコウダサン 八甲田山	1584	10.12	10.16	10.13	ガンドサン 雁戸山	1485	10.30	10.28	11.16
イワキサン 岩木山	1625	10.29	10.15	11.2	リュウザン 瀧山	1362	10.30	10.30	11.16
タイヘイザン 太平山	1170	11.9	10.31	11.16	イズミガダケ 泉ヶ岳	1175	11.19	11.6	11.16
イワテサン 岩手山	2038	9.27	10.13	10.15	ザオウザン 蔵王山	1841	10.30	10.23	10.22
チョウカイザン 鳥海山	2236	9.28	10.9	10.13	アヅマヤマ 吾妻山	1949	10.27	10.21	10.21
ガッサン 月山	1984	9.27	10.15	10.22	イイデサン 飯豊山	2105	9.28	10.17	10.22
アサヒダケ 朝日岳	1870	10.30	10.19	11.13	バンダイサン 磐梯山	1819	10.30	10.24	11.13

注:蔵王山は熊野岳、吾妻山は一切経山の標高を示す。